

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人 杏寿会		
事業所名	グループホーム あけぼの		
所在地	〒859-2112 長崎県南島原市布津町乙674-3 (電話) 0957-72-7370		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月26日

## 【情報提供票より】(H21年 1月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	2月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	13人, 非常勤	3人, 常勤換算
			4.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,900 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	87.6 歳	最低	69 歳	最高
					97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	明島整形外科医院・前川歯科
---------	---------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎県の木材を使った(ひとと木ふれあい振興事業)円形の建物で、広々とした駐車場や庭を有し、自然に囲まれ穏やかで静かな環境にある。施設長は、秩序と調和を重んじておられ、入居者は家族と共に、そして職員も一緒に「明るく、楽しく、自分らしく、笑顔のあるホーム」を目指し、日々実践されている。季節の花々が咲くころには、なるべく多くの入居者が楽しめるよう布団を持参し、職員総出でドライブへ出かけたり、家族参加型の温泉ドライブを企画している。楽しんでもらうことが一番であるとの信念のもと、笑顔と優しさのあふれるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題については改善計画シートを活用し、改善に向けて取り組んでいる。理想を追求し、入居者と共に過ごす時間を削減するのは本末転倒であるとの信念のもと、ホーム独自の取り組みをされている。介護計画については、家族会等で家族が面会に来られた際を利用し説明を行い、処遇記録を改善し介護計画の遂行状況が確認できるよう工夫されている。職員の努力で入浴の機会も増え、より居心地良く過ごせる居室にも工夫が見られた。自己評価については、現場職員を中心に取り組まれている。看取りに関する職員勉強会については、実施予定とされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	現場職員が中心となり、自己評価を行っている。実際に入居者に携わる立場として、理解し難い項目や難しい項目について、職員同士で確認し合いながら取り組んでいる。また、改善課題については、改善計画シートを活用し、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族会代表、支所職員、民生委員、ホーム職員を構成メンバーとし、定期的を実施しており、ホームの現状報告や行事予定、消防避難訓練や行方不明者捜索訓練についての説明等を行い、意見を交換し合っている。諸事情で昨年9月開催を最後に休止しているが、今年3月には再開予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	1年に2回、ホームの運動会と敬老会のイベントの際、家族会を開催しており、家族から意見や要望等を聴く機会を設けている。また、家族会の代表の方に、無記名にて苦情の相談役をお願いしている。意見箱も設置しているが、苦情や不満は出ていない。ホームの方針として、「家族と共に」をテーマとしており、家族面会の際は、入居者と一緒に食事をしようと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	同法人の盆踊りには、地域の方も招いて、入居者や家族も共にカラオケやゲームなどを通じて楽しんでいる。また、秋の祭りの際、お神輿に立ち寄ってもらい、入居者共々お賽銭をあげ参詣している。その他、町内の清掃作業にも積極的に参加している。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人ひとりの思いをBS法を用いて出し合い、[基本的人権の保護・安心した家庭生活・生き甲斐をもった生活・明るく、楽しく、自分らしく笑顔のあるホーム]の4つを柱に置き、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングで、職員全員で理念に立ち返り、実践に活かしている。また玄関に理念を掲示することで、常に意識する取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人の盆踊りには、地域の方も招いて、入居者や家族も共にカラオケやゲームなどを通じて楽しんでいる。また、秋の祭りの際、お神輿に立ち寄ってもらい、入居者共々お賽銭をあげ参詣している。その他、町内の清掃作業にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現場職員が中心となり、自己評価を行っている。実際に入居者に携わる立場として、理解し難い項目や難しい項目について、職員同士で確認し合いながら取り組んでいる。また、改善課題については、改善計画シートを活用し、取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、支所職員、民生委員、ホーム職員を構成メンバーとし、定期的実施しており、ホームの現状報告や行事予定、消防避難訓練や行方不明者捜索訓練についての説明等を行い、意見を交換し合っている。諸事情で昨年9月開催を最後に休止しているが、今年3月には再開予定である。		

グループホーム あけぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも、介護認定更新申請等で支所窓口へ行くこともあり、顔馴染みの関係である。行方不明者捜索の際は、まず支所の担当者に連絡することになっており、連携は密である。また、法人の運動会行事の時など、日頃から民生委員との交流もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時は個別に、家族会の際にはホームの現状や行事等について報告している。また、必要に応じて随時報告を行っている。ホームの方針として、「家族と共に」をテーマとしており、家族面会の際は、入居者と一緒に食事をしてもらうよう勧めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に2回、ホームの運動会と敬老会のイベントの際、家族会を開催しており、家族から意見や要望等を聴く機会を設けている。また、家族会の代表の方に、無記名にて苦情の相談役をお願いしている。意見箱も設置しているが、苦情や不満は出ていない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内での異動があり、異動してきた職員の質の高さにより相乗効果もたらされている。また、離職の際は、入居者へのダメージを防ぐために敢えて説明は避けており、職員のチーム力で支えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の支援の中にこそ学ぶべきことや大事なことが多くあると信念を持ち、職員は現場でスーパーバイザーである上司の実地指導を受けている。また、月に1回はホーム内で勉強会を行い、介護方法等を研修している。その他外部での研修会にも参加する機会を確保している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、毎月実施されるケア研究会には、全員参加を基本としている。研修会ではグループワークもあり、職員同士の交流もある。また、昨年4月の桜見物の際、他のグループホームと合同で交流を図っている。今後も行事等での交流の機会を増やしていきたいとされている。		

グループホーム あけぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの見学や面談を通して、また状況に応じて体験利用をしてもらいニーズの見極めを行うと同時に安心して納得のいく利用開始に努めている。入居後は早く慣れてもらうために、本人の居場所や気の合う仲間作りに職員は配慮している。「大勢の中に一人ポツンと置かれたらどんな気持ち？」を職員に問いかけ、職員それぞれに考えてケアした結果が、徐々に馴染んでもらうための支援につながっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人のできることで役割をもってもらいお手伝いをお願いすることで、協働の喜びを共有している。また、一緒におしゃべりを楽しみながら、感情を分かち合っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「本人の好きな食べ物、嗜好は何？」などテーマを決めてノートに書き出す作業を繰り返すことによって、職員の観察力を高めている。日々の支援の中から個々の想いを探り出し、また家族や関係者からも話を聞くようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の思いや意向を基に、職員の意見やアイデアを出し合い収集して、計画作成担当者が作成している。作成後は再度、家族に個別の方法で伝え、意見や要望を求めるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にモニタリングを実施し、到達したプランについては終結し、新たな計画を作成している。介護計画の遂行状況の確認ができるよう日々の処遇記録を工夫し、1日単位での評価も行っている。本人の状態に変化が生じた際には、計画期間に関係なくプランを変更し、現状に即した計画作成に努めている。</p>		

グループホーム あけぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人で行われる盆踊りをはじめとする様々な行事や慰問等へ参加する機会が多くある。また、職員の子供がホームでの時間を一緒に過ごすこともあり、入居者の生活が活気づくなど、多機能性を有効に活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医による受療継続を基本としている。通院支援はホームで対応しており、かかりつけ医が遠方等で通院に支障をきたす場合や、入院加療後の状況によっては、話し合いの上で変更するケースもある。協力医療機関とは24時間連携体制をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りの経験はないが、今後終末期に向けた支援を行う予定である。本人、家族と話し合い、かかりつけ医と相談しながら方針を定めており、共有していきたいとしているが、職員全員での意識統一が求められる。		終末期に向けた支援についての職員の意識統一を図り、職員個々の看取りの体験談を話し合ったり、不安の解消、医療技術の問題など勉強会を通じて、終末期の入居者を支えるためのチームの連携、職員の力量を向上していかれることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は十人十色なので、それぞれに自尊心を傷付けないような言葉かけに配慮するなど、一人ひとりに合った対応を心がけている。知らず知らずにプライバシーを損ねることがないように、職員同士で注意し合っている。また、個人記録などの書類は事務所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体介護が必要な入居者が多く、ある程度の日課が決まっている中で、可能な限り本人のペースを大切に、理念の中にある「自分らしく笑顔」で生活できるように、行きつけの美容室へ送迎したり、タバコなどの趣向品を楽しまれる方には、職員の見守りを通して支援している。		

グループホーム あけぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助の必要な入居者が多く、またホームの方針で現在は職員と一緒に食卓を囲むことはないが、職員が一人、検食を兼ね同じ食事をとっている。入居者の力量に応じて、食事の準備や片付けを手伝ってもらっている。また、ゆっくりと食事をしたい方には、少し早めに食事を提供し、本人のペースに配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は職員サイドでおおまかに設定はしているが、その日の気分やタイミングなどを考慮して声かけている。入浴を拒否される場合もあるが、父親の役割のような職員が代わって声かけし支援するなど工夫をし、無理強いはいしない。清潔保持のために清拭は毎日行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	健康体操や様々なレクリエーション活動、懐メロのビデオ鑑賞など楽しみ事を用意し、入居者は好んで参加している。また、中庭のウッドデッキやそれを囲む廊下を有効活用し、外気浴や軽い運動をするなど気晴らしの支援をしている。できる方には、家事の手伝いなど役割を持ってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	円形の建物であることを活かし、数名の入居者が連れ立ってホームの周りを散歩している。また、時には買い物に出かけたり、花の咲くころにはドライブに出かけるなど、戸外に出る機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠することなく、出入りは自由である。外出傾向にある入居者については、職員の見配りや気配りを重視しており、行方不明者捜索訓練も日頃から行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災についてはまずは初期消火に重点を置き、消火器を使った訓練の実施や居室全部に水道ホースが届くよう設備を整えている。また、地元消防団や警察にも協力を要請している。さらに入居者を避難させることを大前提として、入居者の参加のもと訓練を行っている。		被災避難後のライフラインの確保について、例えば入居者自身の情報が無いまま協力される医療関係者等に、いかにして既往歴や服薬状況を伝えるか、自分のことをうまく伝えることができない入居者の生命をどのようにして守るかを職員全員で話し合い、さらに向上していかれることを期待したい。

グループホーム あけぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が献立を作成しており、栄養バランスに配慮された食事提供ができています。食事摂取量や飲水状況は日々チェックしており、摂食不良の方には、栄養補助食品等を用意し、栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	円形の建物で、ウッドデッキの中庭があり、程よい光が射してとても明るく、時間や季節の流れを感じることができる。リビングは天井も高く広々としており、解放感がある。和室があり、落ち着いた和の趣が感じられ、昼間は畳の上で昼寝ができる。時にはホーム全体に入居者の好きな音楽を流すなど、五感を使って楽しめる工夫もされ、居心地のよい暮らしの場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、床頭台、羽毛布団をホームで用意しており、その他は使い慣れた物品を自由に持ち込んでもらっている。四季折々のホームでの写真をパネルにし、壁に飾ったり、タンスの上が物置きになってしまっている場合にはさりげなくカーテンをかけ目隠しするなど工夫をしている。位牌を置かれている居室もあり、大切なものに囲まれた居室となっていた。		